



No.153
2023.2.27
兵庫県立神戸商業高校
図書館
新着図書紹介

新書を読んでみる

新着図書として新書がたくさん入りました。ニュースや身近な話題などでよく耳にするワードがタイトルとなっているものや、専門家の目から見た鋭い考察やユニークな知識などが書かれていてもの。読んでみるときっと「へえ〜、そうなん？なるほどお」とまさしく目から鱗。コンパクトで読みやすい分量です。ぜひ気になるテーマを見つけて読んでみてください。

新書『学び合い、発信する技術

—アカデミックスキルの基礎』

林 直亨【著】

アカデミックスキルはすべての知的活動の基盤。これからの社会では、いかにして情報を集め、共有し、発信していくかが問われています。本書では、対話、プレゼンテーション、ライティング、リーディング等についてわかりやすく解説されていて、課題研究のレポートやプレゼンテーションに役立つスキルです。



『心をととのえるスヌーピー

—悩みが消えていく禅の言葉』

古矢永 塔子【著】

名言が多いピーナッツコミックは、自然と禅の考え方を理解できる本。ストレスフルな時代でも前向きに生きるヒントが詰まっている。

『地図と拳』

小川 哲【著】

【第168回直木賞受賞作】

ひとつの都市が現われ、そして消えた。

日露戦争前夜から第2次大戦までの半世紀、満洲の名もない都市で繰り広げられる知略と殺戮。日本SF界の新星が放つ、歴史×空想小説。



新書『大都市はどうやってできるのか』

山本 和博【著】

東京やニューヨークのような都市はなぜ生まれるのか？大都市が繁栄を極めるかたわらで、地方は過疎の一途をたどっている。輸送技術と情報技術の発展により世界の都市化が急速に進むいま、人々が集まる原理から現代の課題まで、都市経済学から考える。

新書 国際報道を問いなおす—ウクライナ戦争とメディアの使命』

杉田 弘毅【著】

メディアはウクライナ戦争の非情な現実とその背景を伝え切れたか。日本の国際報道が抱える構造的欠陥を指摘し、激変する世界において果たすべき役割を考える。

『SNS別最新著作権入門—「これって違法!?」の心配が消えるITリテラシーを高める基礎知識』

井上 拓【著】

弁護士であり、YouTuberでもある著者が、ITリテラシーを高める基礎知識として知っておくべきポイントを、中学生でもわかるように平易な表現で解説する。



『掬えば手には』 瀬尾 まいこ【著】

大学生の梨木匠は平凡なことがずっと悩みだったが、中学3年のときに、エスパーのように人の心を読めるという特殊な能力に気づいた。ところが、バイト先で出会った常盤さんは、匠に心を開いてくれない。常盤さんはつらい秘密を抱えていたのだった。だれもが涙せずにはいられない、切なく温かい物語。

『この世の喜びよ』 井戸川 射子【著】

【第168回芥川賞受賞】

思い出すことは、世界に出会い直すこと。静かな感動を呼ぶ傑作小説集。『群像』掲載等を単行本化。

その他の新着図書

新書 “正しい” を疑え!	真山 仁	文学
新書 津田梅子—女子教育を拓く	高橋 裕子	伝記
新書 森鷗外 学芸の散歩者	中島 国彦	文学
新書 アメリカとは何か—自画像と世界観をめぐる相剋	渡辺 靖	社会
新書 ミャンマー現代史	中西 嘉宏	歴史
新書 読書会という幸福	向井 和美	総記
新書 曾國藩—「英雄」と中国史	岡本 隆司	伝記
新書 江戸漢詩の情景—風雅と日常	揖斐 高	文学
新書 記者がひもとく「少年」事件史	川名 壮志	社会
新書 スピノザ—読む人の肖像	國分 功一郎	哲学
新書 迫りくる核リスク—“核抑止”を解体する	吉田 文彦	法律
新書 「移民国家」としての日本—共生への展望	宮島 喬	経済
新書 大塩平八郎の乱—幕府を震撼させた武装蜂起の真相	薮田 貴	歴史
新書 現代カタストロフ論—経済と生命の周期を解き明かす	金子 勝/児玉 龍彦	経済
荒地の家族	佐藤 厚志	文学
しろがねの葉	千早 茜	文学

地理学で読み解く流通と消費—コンビニはなぜ集中出店するのか	土屋 純	商業
なるにはBOOKS 大学学部調べ 生活科学部・家政学部	木村 由香里	教育
なるにはBOOKS 芸術学部	浅野 恵子	教育
なるにはBOOKS 情報学部	漆原 次郎	教育
ブルーカーボンとは何か —温暖化を防ぐ「海の森」	枝廣 淳子	環境
高校生のための「歴史総合」入門— 世界の中の日本・近代史 1 日本に「近代」到来	浅海 伸夫	歴史
ハイヒールを履かない女たち —北欧・ジェンダー平等社会のつくり方	あぶみ あさき	社会
基礎から学ぶ データ構造とアルゴリズム	穴田 有一	情報
彼女の思い出／逆さまの森	サリンジャーJD	文学

ぶらり選書 2学年 正井先生

『あんなに あんなに』

ヨシタケシンスケ著

幼い頃、こんな経験はないだろうか？
出かけた先で、おなかがすいた幼い私。
母に「おなかすいた!」と言うと、
母は「じゃあ、急いで帰って、ごはんにしよっか!」
すると、
私は「いやや!今食べたい!お菓子買って!」
母「今食べたら、ごはん食べられへんようになるよ。だからちょっと麦茶飲んで、急いで帰ろう!」
私「うう〜ん。大丈夫!晩ごはんきちんと食べるから!お菓子買って!お願い!」
そして、しぶしぶお菓子を買う母。
それを満足そうに食べる私。
その夜、私は「お母さん…おなかいっぱいで、ごはん食べられへん…」とお構いなしに言う。

この本を読んで、こんな母とのやり取りを思い出した。
そして今は立場が逆になり、子どもたちと日々戦っている。
成人して幾星霜。それでもまだまだ大人になりきれない幼い自分がいる。

これから成人を迎えるキミたちへ。
これから社会人デビューしていくキミたちへ。
順風満帆の毎日ばかりではないが、それでも前を向いてチカラ強く歩いていく。

そんなキミたちをいつまでも応援したい。